

「鉤状巻雲」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

台風 18 号は関東地方直撃を避けて、北東に去っていった。今日の東京は久しぶりによく晴れて、暑くなった。10 月とは思えない強い日差しの中、3 年生の子どもたちと、校舎屋上で太陽の影の動きを観察した。



今日は午前中から日差しがとても強く、しかも照り返しの強い屋上では 10 分ぐらいの観察で精いっぱいだった。それでも、立てた棒の影は確実に動き、太陽が動いて見えることを実感できた子どもが多かった。



私は太陽の影よりも、台風一過の雲に心ひかれた。さまざまな種類の巻雲が見えた。巻雲は、上空 10000m 付近の氷晶の雲で、台風や低気圧が去ったあとによく

現れる。「すじ雲」とも呼ばれ、非常に薄い層の雲である。今日は、波状巻雲、尾曳巻雲、膜状巻雲、濃密巻雲、それに巻積雲（うろこ雲）も混在していた。



私が一番すばらしいと思ったのは、巻雲の先端が 90° 折れ曲がった形状のものだ。これは「鉤状巻雲」（かぎじょうけんうん）と呼ばれている。典型的な巻雲の形態の一つだが、意外にも見る機会は少ない。



巻雲は、対流圏の最上層部で発生した氷晶が、風に流されて、筋状に成長する。巻雲の先端が鉤状に曲がるのは、ある高さの大気層に別の方向の流れが存在するからである。つまり、上層対流圏の状態が未だ不安定だということを意味する。太陽の影の観察中にも、何人もの子どもが「先生、今日って雲がきれいだね」と言っていた。3 年生の子どもが、雲の美しさに気づくのは、実にすばらしいことである。